

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2571800107
法人名	社会福祉法人 達真会
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 ささゆりの家
訪問調査日	2009年 7月 31日
評価確定日	2009年 9月 1日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年8月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2571800107
法人名	社会福祉法人 達真会
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 ささゆりの家
所在地	〒522-0322 滋賀県犬上郡多賀町佐目675番地 (電話) 0749-49-8030

評価機関名	社団法人滋賀県社会福祉士会
所在地	〒520-2352 滋賀県野洲市富波乙681-55
訪問調査日	平成 21 年 7 月 31 日

## 【情報提供票より】(平成21年7月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	30,300 円	
敷金	有( 円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 88.8 歳	最低 77 歳		最高 99 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川相診療所 ・ 彦根中央病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年の9月で設立8周年を迎える。「できること」の自立支援から「やりたいこと」の生活支援に力を入れ、その成果が、利用者にはこやかに、個性豊かに暮らしている。この理念を地域の人たちにも広げようと、併設の特別養護老人ホームなどと「みんなが優しくなれる地域づくり」をめざし行政とも協働を図りながら、町の福祉ゾーンの中心として地域のさまざまな行事、健康教室、福祉会の活動支援等に協力し、つながりを深めていこうとしている。  
利用者の高齢化・重度化にともなう新たな問題も抱えているが前向きに取り組んでいる。終末期に向けての支援も積極的に取り組もうとしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、4項目の課題があった。自己評価の項目については改善が見られなかったが、他は、アンケートの実施方法を工夫することで家族の意見・不満・苦情を気楽に出してもらえるように改善、重度化・終末期に向けた方針の項についても、現在体力の弱った利用者を看取りを視野に入れて支援し続けようとする取り組みが進んでおり、夜間の避難訓練についても想定ではあるが実施されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者が単独で実施したものである。職員全員でそれぞれの関連箇所を部分的にでも自己評価することにより、利用者の生活支援の課題や職員の仕事への意欲も新たに発見できると思うので、ぜひ、自己評価に職員全員が参加できるように取り組んでほしい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員は利用者代表、利用者家族代表、地域代表(佐目区長)、町または地域包括職員、特養の知見を有する者、「ささゆりの家」施設長、グループホーム主任、事務局員からなり、グループホームの状況報告、ささゆりの家で困っていること、地域で困っていること、敬老祝賀会について、佐目地域の福祉会の活動についてなどが話し合われている。福祉会の活動を通して地域とのつながりを深めていこうとしている。会議録は詳細に記録されていた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への連絡は、写真なども添えてグループホームでの生活が分かりやすいように伝えようとしている。しかし、家族からの意見や苦情・相談などの聞き取りは「不十分」とし、「今年8月の無記名アンケートは、家族からの意見等が出やすいように工夫した」としており、家族の率直な意見を聞きだそうとする意欲は感じられた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の個別の商店の人が、商品配達時に話し込んでいたり、近所の人からお花や野菜をいただいたりというような普通の近所付き合いがある。施設での夏祭りには地域の人が参加され、地域の健康サロンへは利用者が定期的に参加している。また地域の健康サロンを施設で開催したり、地元地区の「福祉会」にも交流・活動協力を呼びかけるなど、地域住民との連携は盛んである。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「できることの自律支援」から「やりたいことへの生活支援へ」という独自の理念の実現に向けて、利用者の可能性をできる限り伸ばそうと、地域の行事への参加や併設施設の利用者との交流などを積極的にすすめている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「やりたいことへの生活支援」の理念を、管理者・職員共にしっかりとらえ、一人ひとりの利用者にあつたプランを作成し、その実践を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りの行事には地域の人々が来られ、地域の運動会や祭りには積極的に参加している。公民館で開かれているサロンを施設で開いたり、地域の「福祉会」にも協働しようとする試みが始まっている。また居酒屋、喫茶が開かれる時には地域の人々も来られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果はミーティングで取り上げ、改善への取り組みを実施されているが、今回も、自己評価は管理者が単独で行い、職員の意見は聞いていない。	○	外部評価を利用者への支援をよりよいものにするための一つの機会ととらえ、職員全員が現状の自己評価をし課題を見つけることはとても有意義なことと思う。次回はぜひ全員で自己評価をしてみたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度開催され、メンバーは利用者・利用者家族の代表・区長・町または地域包括の職員・併設特養の職員・施設長と主任である。施設の状況報告、「福祉会」や「敬老祝賀会」「施設や地域で困っていること」等を議題にし、広く意見の収集・交換をして運営に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町のキャラバンメイト活動(認知症啓発活動)に施設から職員が参加しており、この活動を施設で開いたり、町の福祉ゾーンの中心として、町との連携は密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回担当者が現状報告している。写真なども添えて、施設での生活を分かってもらえるように工夫している。また、体調の変化など必要時にはその都度電話連絡などしている。夏祭り、敬老会、忘年会などの行事案内も参加してもらえるように案内している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多いので、その時にできるだけ話す機会をとらえて聞き出すようにしている。玄関に意見箱を置いている。9月の敬老祝賀会の時に、意見を出しやすいように工夫した「無記名のアンケート」を事前に配布し、実施する予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限におさえている。異動があった時は、はじめは日勤帯で主任について勤務し、それ以降も慣れるまでベテランと一緒に勤務する。異動で離れた職員も施設の行事などには顔を出したりしている。職員の要望や悩みなども施設長が聴き、職場環境を整えて職員の転職を抑える努力もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入し、各自で設定した目標について、定期的に面接・評価を行い教育・指導をしている。新しい職員養成はケアマネジャーと施設長があたり、その都度助言したり、日誌などの記録にも気を配っている。内部研修の他に、外部の研修も希望すれば参加できるように勤務日程の調整などを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に加入し、2か月ごとに同業グループホームを訪問しあつての見学・勉強会が行われており参加している。「学ぶことが多い」と職員も歓迎しており、その時に気づいたことがミーティングで検討され、実際の運営に生かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近入居の2名もそうだったが、併設のデイサービスやショートステイを利用していた方が多く、ホームの雰囲気になじみやすい利点がある。事前の見学や説明を行っているが、入居時混乱がひどい場合は、その人に合った支援を工夫し、慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問日、歌の本を手に職員を誘い、次々と歌う方、「この子を散歩させなくては・・・」と手押し車の人形に語りかけながら廊下や庭を行き来する人、昼食の準備を手伝う方などあり、職員も利用者のペースに合わせた自然体の姿で接し、なごやかな光景が見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートをさらに使いやすくした独自のシートを作り、これに日々の気付いたことなどを細かく記録し、このシートを介護計画づくりや支援に反映させている。「センター方式を活用することで、ご本人、ご家族からの情報が多く得られた」と。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議は月一回開催されている。6か月に一度、センター方式をもとに、アセスメントを行っている。散歩や墓参り、外出など「やりたいこと」をできるだけかなえられるような支援をしようと努めている。ケアプラン作成時には、現在のところ2家族だが、可能な限りご家族も参加していただけるように配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しは6か月に一度であるが、ミーティングは月一回開催され、プランの見直し検討をしており、必要に応じてその都度プランを変更している。ご本人の思いを聞き取り、したいことや行きたい所などを把握してその思いを介護計画に入れていっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、併設事業との兼務である看護師が毎日バイタルチェックに来訪し、健康管理を行っている。外食、墓参り、病院受診などの付添いや、地域サロンへ参加される時はその送り迎えなどもしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医院と連携をもち、月に2回医師が来訪し利用者全員の健康管理をしている。入院などは隣の市にある病院と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアの指針はできており、契約書にも明記している。現在、体力が弱り全部ゼリー食の利用者を医師や家族と連携をとりながら、職員全員でできる限り支援している。随時、ご家族を含めたカンファレンスを実施し、ご家族の希望、今後予想される危険など、将来のサービスの体制について話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録など個人情報は別室に保管されている。そこへの出入りは必ず声をかけて了解を得てから行っている。職員の言葉かけや、トイレの誘導など尊敬の念を持って、さりげなく行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの「その日」「その時」したいことにそって、利用者のペースや体調に合わせて支援している。日常の業務で対応が難しい局面ができてきたら、業務を見直し、利用者のペースに合うような職員体制にするように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人は職員と一緒に食事の用意をしている。また食後、多くの利用者が職員の声かけに応じて、食器を流しへ持っていき、洗っていた。時には、近くの道の駅やパラ園へ弁当を持って車で出かけ、昼食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週2回は入浴している。「しんどい」と言い入浴を嫌がる場合は、足湯や清拭に変え、「清潔」と「暖かい体温維持」を保てるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の高齢化・重度化で昔できていた畑や花壇の作業はできなくなっているが、朝夕の仏壇へのおつとめ読経や花壇の土づくりや野菜つみなどはすすんで行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・盆の墓参りなどの外出には職員が付き添っている。食材の購入などは職員が利用者同伴で買い物に出るが、日常は近くの商店の宅配や出張販売を利用している。個人的な外出や買い物は数か月に一度ぐらいだが、天気の良い日には弁当を持って出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中は玄関はじめどこにもかけていない。しかし、施設が国道と川に挟まっているので、人感センサーを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は併設施設と合同で、消防署立会いのもと、年2回実施し、その1回は夜間想定で行っている。「隣接施設には職員がおり、宿直もいて一人ではない」とはいえ、特に夜間の避難には不安が残ると職員が言っていた。訓練には利用者も参加している。	○	玄関前に併設施設の大型車が何台も駐車されていて、初めて訪問した者には、玄関口の入り方も分かりにくいようになっている。特に夜間もこのような状態であることは避難経路の確保という点からも問題があるのではないか。大型車の置き場所の変更など考慮してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てている。「むせ」などにより水分摂取のしにくい人は水分をゼリー状にしたりして、一人ひとりの状態にあわせて支援している。また食事量などもその人に合わせた量にしている。食事量・摂取した水分量ともきっちりと記録されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファや椅子・テーブルは向きや配置が一律ではなく、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。時には片隅に洗濯物がちょっと干してあったり、ごく普通の家の雰囲気があり、利用者はその中で落ち着いて暮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ思い思いの馴染みの物や家具が置かれ、その人らしい居室になっている。部屋は利用者が中から鍵をかけることもできる。		